

12

安楽

Comfort

▶ 「安楽」とは

領域(ドメイン) の定義

精神的, 身体的, 社会的なウェルビーイングまたは安心感

「安楽」とは、学研国語大辞典(学研プラス)では「苦痛がなくやすらかであること」とあります。NANDA-I 看護診断では、現在は「身体的安楽」「環境的安楽」「社会的安楽」の3つの類(クラス)があげられています。中核は身体的な安楽と考えてよいでしょう。本人にしかわからない感覚である苦痛を、客観的データの収集に基づき看護診断として分類しています。

また、人間は社会に所属して人と人とのかかわりをもって生活する動物ですので、その所属する社会のなかでの安寧も求めているとされます。

身体的苦痛として「悪心」「急性疼痛」「慢性疼痛」「慢性疼痛シンドローム」「分娩陣痛」、社会的苦痛として「孤独感リスク状態」「社会的孤立」があげられています。

▶ 類(クラス)ごとのアセスメントのポイント

類(クラス) 1 身体的安楽

類の定義

ウェルビーイングや安心感や苦痛のないこと

苦痛の尺度には個人差があり、痛みの表現方法も人によって変わります。痛みは本人にしかわかりません。目安としてペインスケール(図31)などを用い、強さを確認するようにしましょう。さらに客観的な情報や各種の指標も用いて診断を確定していきます。

12

安楽

また、痛みには、患者さんの外観（表情の変化など）をみても痛みの部位がわからない場合があります。頭痛、胸痛、腹痛がそうです。

頭痛がある場合に考えられる疾患は、くも膜下出血や脳内出血、急性髄膜炎などです。これらの疾患では、痛み方の頻度や随伴症状の観察が重要なポイントになってきます。

胸痛がある場合は、狭心症や胸部大動脈破裂、自然気胸、胆嚢炎など、多くの関連疾患が考え

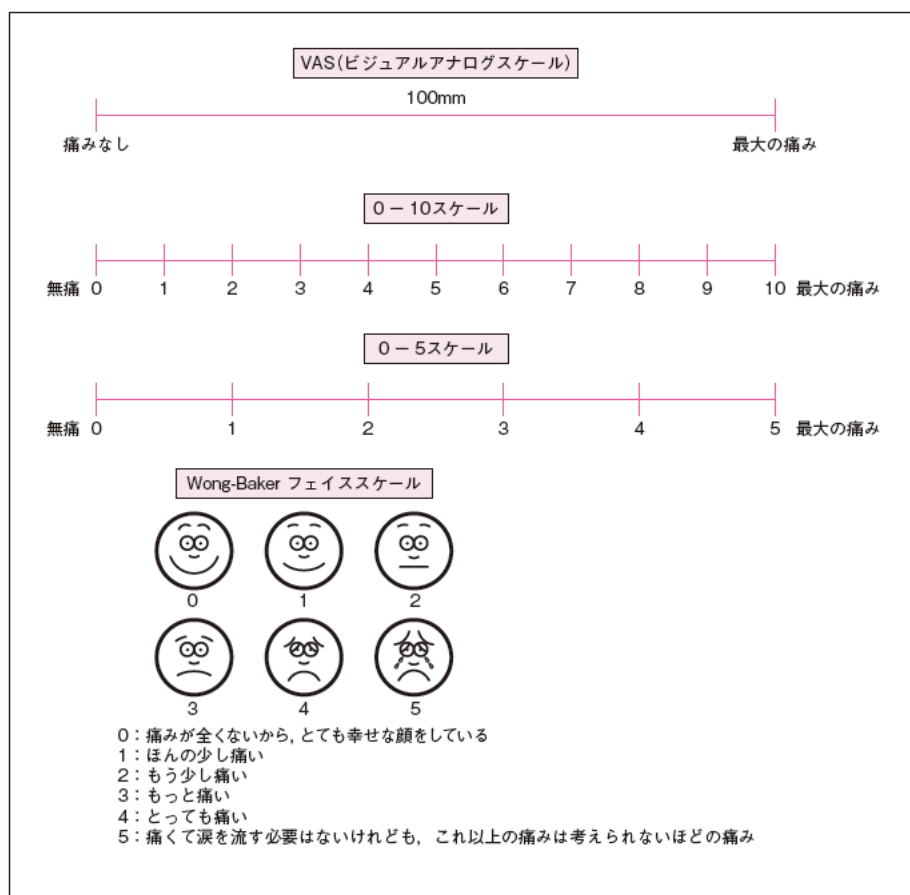
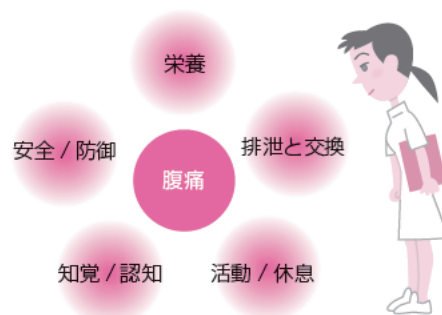


図 31 ペインスケールのいろいろ

られます。胸痛の部位、どんな胸痛なのか、また、既往歴に関連する疾患がないかを確認することを忘れないでください。

腹痛がある場合は、心窩部・右季肋部・左季肋部・臍周囲・下腹部・腹部全体の触診や観察が必要になってきます。この場合、関連する領域として、たとえば「2. 栄養」「3. 排泄と交換」「4. 活動／休息」「5. 知覚／認知」「11. 安全／防御」にも結びつけてデータをとっていく必要があります。

なお、表6 (p.39-41) に、バイタルサインの症状と観察項目、考えられる疾患を示していますので、参考にしてアセスメントに生かしてください。

観察の視点：身体的安楽

主観的データ	<ul style="list-style-type: none"> ● 痛み ● 吐き気 ● 食物に対する嫌悪感、食欲不振 ● 口腔内の酸っぱい味
客観的データ	<ul style="list-style-type: none"> ● 苦悶様顔貌 ● 疼痛があることを表現する言動 ● 疼痛を避ける、かばう体位 ● 筋緊張 ● バイタルサインの変化 ● 痛みの終わりの予測 ● 痛みの持続時間、再燃間隔、強弱 ● 睡眠障害 ● 唾液分泌の増加 ● 嚥下回数の増加 ● 誤嚥 ● 口腔衛生 ● 体液バランスのデータ、IN/OUT ● 服薬の効果は期待できるか ● 本人の行動で悪心が軽減(管理)されるか

類(クラス)2 環境的安楽

類の定義 環境内での、または環境との、ウェルビーイングや安心感